

麻生すこやか通信

VOL. 43

医療法人 札幌麻生脳神経外科病院 広報誌 2023年1月

withコロナでも
あきらめない医療を

理事長 齋藤 久泰

日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会認定専門医
日本脳卒中の外科学会技術認定医、北海道大学客室研究員

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。昨年は、引き続きのコロナ禍、ロシアのウクライナ侵攻、急激な円安と物価高など、暗いニュースが多い1年でした。その中で、ワールドカップでのサッカー日本代表の活躍、苦境における「あきらめない姿勢」は、私たちに大きな感動と希望を与えてくれました。

当院は、昨年もコロナに悩まされた1年になりました。ウイルスの弱毒化により社会的にはウィズコロナに舵を切っていますが、医療現場では感染を蔓延させる訳にはいかず、厳しい対策を続けております。そのため、診療制限せざるを得ないこともあり、大変申し訳なく思っております。院内クラスターも経験し、その際は外来・入院患者さま、およびご家族の皆さまに大変ご迷惑をおかけしました事を改めてお詫び申し上げます。また、医療スタッフにかかる精神的、肉体的スト

レスも限界に達している中、温かいねぎらいの言葉をかけていただいた患者さまには、心より感謝を申し上げます。当院は1985年の開院以来、「患者さま第一」を理念に掲げて診療を行って参りました。ウィズコロナの時代、患者さまとご家族の皆さまには様々なご負担をおかけする事もあり、患者さま一人ひとりのお気持ちに寄り添った医療を職員全員でより一層心がけていきたいと思っています。困難な状況でも、「あきらめない医療」を実践し続けていく所存です。

当院では、脳・脊髄から末梢神経まで、各領域のプロフェッショナルが診療にあたっています。4台のMRI、最新のDSA装置、SPECT・CTの複合機など診断機器も充実しており、手術機械、術中ナビゲーション装置なども最新機器に随時更新し、最先端の治療が可能です。北海道大学脳神経外科とも協力しており、最善の治療提供に努めています。また、急性期治療はもとより、リハビリ治療にも力を入れています。回復期リハビリ病棟では、専従のリハビリテーション専門医のもと、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士と看護師、ソーシャルワーカーなど様々な専門職がチームを組んで在宅復帰を目指したリハビリ治療を行っています。また、訪問看護ステーションではご自宅で安心して過ごせるよう支援しております。これにより急性期から回復期、そして退院後の維持期まで切れ目のない治療提供が可能になっています。

今年はコロナ禍からの脱却、日本経済の回復、世界の平和を祈念し、そして当院にとって飛躍の年にしたいと思います。今後とも皆さまのご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

Meet the

Expert セミナー

に参加して

院長 飛驒 一利

日本脳神経外科専門医 脊髄外科指導医
日本脊髄外科学会理事長 日本脊髄障害
医学会理事 脊髄ジャーナル編集委員



左：國保先生 中央：飛驒院長 右：金先生

2022 年 12 月 12 日年末に幕張での研究会に特別講演の講師として参加してきました。座長は日本医科大学千葉北総病院の脳神経外科部長の金景成先生でした。

1 部の基調講演では、日本医科大学千葉北総病院脳神経外科の講師の國保倫子先生が「脳神経外科医による末梢神経障害の治療」の講演を行い、特に足根管症候群の診断と治療について詳細を報告をされました。



北大総長室にて 宝金総長と飛驒院長
後ろの Boys Be ambitious は新渡戸稲造先生が描いたそうです

Boys Be ambitious

脊髄外科の勧め

2 部の私の特別公演では「脊髄外科の勧め」というタイトルで、北海道大学の紹介、私自身のキャリア、北大の先輩・仲間について、札幌麻生脳神経外科病院の紹介、脳神経外科における脊髄外科について、私の好きな手術等について話をさせていただきました。

金先生は釧路労災病院の井須豊彦先生の元で、脊髄外科、末梢神経障害の外科治療について勉強をされ、現在は脊髄外科学会の理事の一人として、また脊髄外科学会の学会誌の編集者として active に活躍されている先生です。後輩の面倒見もよく、千葉県は整形外科の勢力が強い地域ではありますが、とても頑張っておられました。今後も益々活躍されることと思います。

もの忘れ外来

予約は不要です

こんな不安、ありませんか？

- 人の名前を思い出せない
- しまった物の場所が思い出せない
- 久しぶりに会ったご家族の様子に変化がある など



当院では、「もの忘れ」についての相談を承っております。
気になること、ご心配なご様子がある場合は、お早めにご相談ください。

もの忘れを予防する！

加齢に伴う記憶力の低下は「自然の現象」とも言えますが、いつまでも若く脳を保ちたいですね。40代、50代からの健康管理が鍵となります。

できることから始めましょう！！

① 規則正しい生活

② 動脈硬化を防ぐこと

◎生活習慣病(高血圧・糖尿病・高脂血症)の治療
◎食習慣を見直そう！

③ 運動のすすめ

◎目標 1日5,000歩！



受診の流れ (2回の受診が必要です)

1回目 (予約なく受診していただき、問診と脳の画像検査、診察を行います)

問診

MR検査

診察

2回目の予約を
お取りします

問診では、普段のご様子の確認が重要です。
ご本人のことを良く知っている方(同居のご家族など)と、一緒に受診してください。

2回目 (認知機能検査など検査後、もの忘れ外来担当医の予約診察となります)

認知機能検査

専門医による診察

※2回目に検査が追加になる場合があります。
お薬手帳をご持参ください。



もの忘れ外来担当
村田 純一 医師

日本脳神経外科学会専門医
認知症サポート医

手術実績

年間手術件数
592件 (2022年)

脳腫瘍	23件
脳血管障害	116件
外傷	45件
奇形	1件
水頭症	17件
脊椎・脊髄	338件
機能的手術	8件
血管内手術	35件
その他	9件

主な内訳

脳血管障害

破裂動脈瘤	15
未破裂動脈瘤	48
頸動脈内膜剥離術	26
その他	27

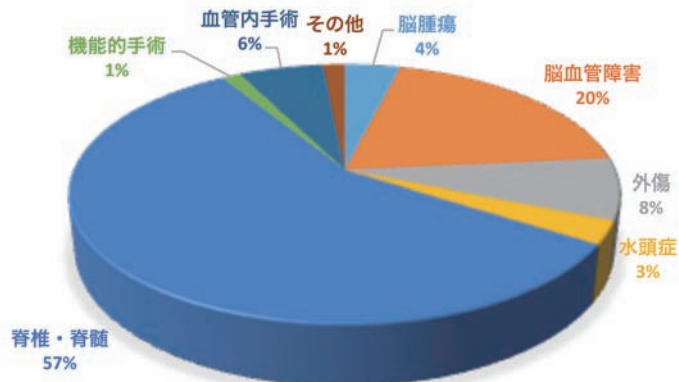
脊椎・脊髄

腫瘍	37
変形性脊椎症	236
椎間板ヘルニア	22
その他	43

血管内手術

動脈瘤塞栓術	4
動静脈奇形	1
閉塞性脳血管障害	21
その他	9

2022年実績



当院の2022年の手術実績は592件でした。そのうち脊椎脊髄疾患の手術は338件で、日本脊髄外科学会の理事長でもある飛騨一利院長をはじめ、同学会の指導医・認定医が3名在籍し、脊髄腫瘍や変形性脊椎症、椎間板障害、脊髄空洞症などの症例も豊富に行っています。脳血管障害では、くも膜下出血や重症の脳内出血など緊急性の高い開頭手術はもちろん、脳卒中を未然に防ぐための未破裂脳動脈瘤の治療も数多く行っています。またt-PA静注療法や血栓回収療法など専門医による血管内治療にも対応しています。

編集後記

今号では、「もの忘れ外来」についてご紹介致しました。もの忘れの予防対策には日頃の健康管理も大切ですが、認知症かどうかの早期発見が重要になってきます。ご自分で、もの忘れが心配になったり、ご家族の日常生活に異変を感じたら、早めの受診をおすすめします。当院では予約なしでの受診も可能ですので、ぜひご参考になさってください。

医療法人 札幌麻生脳神経外科病院

〒065-0022 札幌市東区北22条東1丁目1-40
TEL 011-731-2321(代表) FAX 011-731-0559
ホームページ <http://www.azabunougeka.or.jp>

交通アクセス

- 地下鉄：南北線 北24条駅下車
(2番・3番出口から徒歩約7分)
- 中央バス：「北21東1」下車、徒歩約2分
- 中央バス：「北24東1」下車、徒歩約2分



ホームページ



当院への バス路線 中央バス

屯田線02・新琴似線09・あいの里・篠路線22
篠路駅前団地線36・ひまわり団地線28
花川南団地線14・花畔団地線16・元町線東70
石狩線・石狩線(トーマン団地行)・札厚線・札幌線(特急)

※お間違いないようご注意ください

- 往路と復路とで停留所の異なる路線があります。
新琴似線09・花川南団地線14・花畔団地線16・石狩線・石狩線(トーマン団地行)
- バス停「北24条東1丁目」は旧石狩街道・石狩街道・宮の森北24条通の3カ所あります。